

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
教育目標「人間性豊かで実践力のある児童の育成」 ○めざす児童像 ・たくましく(素直で誠実な子) ・かしこく(自ら考え行動する子) ・たくましく(心と体を鍛える子) ○指導の重点 ・人間力あふれる児童の育成(自ら学び仲間と高め合う子、自他を大切にできる子、何事にも挑戦しやり抜く子) ・「自然と伝承文化の豊かなふるさと高田」に根ざした教育の展開(ふるさと学習→人間力の向上)	□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 B 】 年度末【 】 □授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】 □言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 】 □学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 B 】 年度末【 】 □授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 B 】 年度末【 】 □家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 B 】 年度末【 】

※達成度 「S: 目標を大きく上回った(100%超)」 「A: 目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」  
 「B: 目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C: 目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」  
 「D: 目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E: 目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 ○国語A、算数A、国語B、算数A、理科全てにおいて、県平均と比べると正答率が高い。 ○国語では、目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題がある。 ○文法・文作り(文の分け方等)について理解不足がある。 ○算数Aでは、どの領域も高い正答率だが、単位数あたりの大きさを求める式と商の意味を理解することに課題がある。 ○基本的な計算や公式など身についてきているが、その意味を選んだり説明したりするところが不十分だった。 ○算数Bでは、図形領域に若干の課題がある。 ○理科では、物の溶け方についての学習の理解が課題である。 県 ○国語、算数ともに正答率が県平均を下回っている。 ○昨年度と比較すると、県平均との差が少しだけ縮まった。 ○目的や条件に沿って書く力が弱い。 ○内容を的確に読み取ること課題がある。 ○学年が下がるほど、問題量についていけず、後半の無解答が飛躍的に増えている。	【学習状況調査の結果】 ○テレビやゲーム等のメディア利用時間が多い。 ○平日の家庭学習時間(1時間以上)は県平均並み、しかし、自主学習に進んで取り組む児童が多く、内容の質も高い。 ○読書時間は、個人差が大きいが、全くしない児童がいる。 ○「あいさつ日本一」の学校を目指し、全校であいさつの取り組みをしているので、あいさつの項目について肯定的である。 ○地域行事の参加や地域の目と関わる児童の割合は高いが、地域社会でのボランティア活動や地域問題、出来事などについての関心は高くない。 ○算数の学習については意欲的に取り組んでいる児童の割合が高い。

成果	課題
○6年国語A、国語B、算数A、算数Bすべてにおいて、県平均を上回った。基礎基本の定着に向けて学校全体で全校漢字テスト、どんどんチャレンジ、放課後補充プリントなどに取り組んできた成果である。 ○3～5年では、県平均よりも低かったが、差が縮まったのは、基礎学力の定着に向けて学校全体で取り組んだことが、低位の児童の底上げとなった。 ○毎日の授業の中で「まとも」「振り返り」を書いたり、朝学習でミニ作文や視写、行事作文に取り組んだりすることで表現力が伸び、記述問題の無解答率が減った。 ○授業改善により、課題に対してじっくり考え自分の思いをつらねることに大切にしている。そして、学び合いを通して、読みを深める学習を積み上げている。	○学年が上がるにつれて、家庭学習の目標時間達成率が下がり、メディア利用時間が増加する傾向にある。 ○学校で「おすすめ200冊」など、読書奨励する取組を通して、様々な本を読む機会が増えているが、個人差が大きい。家庭への働きかけや連携が必要である。 ○書く目的や対象、条件(字数・使用語句・立場など)に合わせて書くことが苦手である。 ○じっくりと課題と向き合い、自分の考えをしっかりと作らせる授業を重視しているが、その一方で時間を意識してスピーディーに問題に取り組む経験も積ませる必要がある。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
目的や条件に沿って書く力を高める。	2月末	条件を満たした表現ができる70%	・授業や家庭学習でしっかり書く活動を取り入れ、書くことへの抵抗を減らしていくとともに、条件などに合わせて書く活動も意図的に取り入れていく。 ・週末課題として、日問題(書く力)や日記に取り組ませる。月曜の朝学習の時間に解説する。	書く活動(読め発問、作文)などにしっかり取り組ませているが、まだ抵抗がある児童がいる。週末課題として、日問題の内容に取り組むことで、力がついてきた。	B			
漢字や計算などの基礎学力の定着	2月末	正答率80%	・効果が上がっている全校漢字テスト、名文暗誦は継続する。該当年度の漢字の習熟を図る。 ・どんチャレ(前学年からの復習)、放課後補充学習(1回で2枚、東書Webから苦手な問題)で、基礎学力の定着を図る。	全校漢字テストや暗誦など、児童は確実に力をつけている。どんチャレや放課後補充学習をすることで、基礎学力の定着を図ったが、個別指導が必要な児童への対応が必要。	B			
家庭学習の定着と充実	12月末	各学年の目標時間達成 80% (学年×10分+10分)	・自主学習について、意欲の喚起・継続を促しながら、内容の向上を目指して取組を進める。 ・授業と家庭学習をつなげる取組をする。 ・高田っ子カードの取組回数を増やし、家庭学習強化週間などを設け、保護者の意識付けや協力を促す。	自主学習は全校児童が意欲的に取り組んでいる。各学年の目標時間達成の割合は全体の7割程度。授業と家庭学習をつなげることで意欲的に取り組んでいる児童が多い。	B			

※達成度 「S: 目標を大きく上回った(100%超)」 「A: 目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B: 目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」  
 「C: 目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D: 目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E: 目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○「時を守り、場をきれいにし、礼をつくす」中学校ブロック 共通の目標の設定 ○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。 ○年4回の小中連携の日を設定し、教職員のつながりを深める。 ○チャーム着席を徹底する。	○「高田っ子カード」の結果をPTA新聞に掲載し、家庭学習の確保と、メディアの適切な利用、読書の取組やあいさつの徹底を呼びかける。 ○ノーマディアの取組を家庭を巻き込んで行う。